

商品名				
EA557AJ-2/2L/100/150 叩ける電エドライバー				
構成部品	コード	名称	一般名	備考
(+)刃先	176-A	素材	特殊合金鋼	
	71-12	表面処理	黒染	
	71-1	表面処理	ニッケル・クロームメッキ	
(-)刃先	5-B	素材	特殊合金鋼	
	71-12	表面処理	黒染	
	71-1	塗装	ニッケル・クロームメッキ	
インナー黒	1-1-11	素材	PP	
アウター赤	1-12-3	素材	TPE	
座金	1-1-36	素材	PP	
	328-1-2	パットマーク	VIC(Z)コンク 120ホワイト	
ナット	233-1-35	素材	鋼材	
	233-2-17	表面処理	ユニクロ	

※構成表に記載のコードNo.と、MSDSフォルダのPDF名称が一致しておりますのでご注意ください。

※コードに記入がない部品はMSDSがありません。

製 品 安 全 デ ー タ シ ー ト

1. 製品名: 機械構造用炭素鋼・合金鋼

JIS G 4051 機械構造用炭素鋼鋼材

JIS G 4052 焼入性を保証した構造用鋼鋼材 (H 鋼)

JIS G 4053 機械構造用合金鋼鋼材

JIS G 4107 高温用合金鋼棒・板材

JIS G 4108 特殊用途合金鋼棒・用棒鋼

2. 製品の組成: 単体/混合物の区分: 混合物 (合金)

主な成分

成 分		含有量 (Wt%)	CAS 番号
鉄 [Fe]	*2)	残 量	7439-89-6
クロム [Cr]	*1), *2)	0 ~ 10	7440-47-3
ニッケル [Ni]	*1), *2)	0 ~ 8	7440-02-0
マンガン [Mn]	*1), *2)	0 ~ 3	7439-96-5
モリブデン [Mo]	*1), *2)	0 ~ 3	7439-98-7
銅 [Cu]	*2)	0 ~ 5	7440-50-8

*1) P R T R法で選定された物質 (第一種指定化学物質) の対象。

*2) 労働安全衛生法の通知対象物質。但し、本製品は固体金属であるが、7項の「取り扱い及び保管上の注意」を参照方。

注1) 成分値は上記成分範囲において、鋼種規格により異なる。

注2) 用途により上記主成分以外に微量元素を含むものもある。

注3) 詳細はミルシートに記載

3. 危険有害性の要約

分類の名称 : 該当する分類 (急性毒性、爆発性、可燃性等) はない。

危険有害性 : 現在のところ有害な情報はない。

4. 応急措置 : 応急措置が必要な事態はない。

5. 火災時の措置 : 不燃性の状態であり、又周辺の火災においても、通常の散水・消火器等の使用に制約はない。

6. 漏洩時の措置 : 形状のある固体である為、該当する事項はない。

7. 取り扱い及び保管上の注意

(1) 本製品を加熱、溶融、研磨等の加工等を行い、ダスト・ヒューム形態の金属及び金属化合物等が

生じる場合は、成分元素に関わる暴露限界以上のダスト・ヒューム等の影響を受けない様に、衣服や顔面等の適切な保護や、換気措置をすること。（例えば成分元素のMn化合物ヒュームは吸入、経口吸入による急性及び慢性中毒が認められる為である。）尚暴露限界値については「日本産業衛生学会勧告値」や「ACGIH:米国産業衛生専門家会議勧告値」等が適切である。

(2) またダスト・ヒューム等の収集物についてはその形態に応じた危険・有害性を確認の事。

（例えば粉体状になっている場合、燃焼・爆発性を有する場合があること等）

(3) 本製品を酸洗、脱スケール等の処理を行い金属が溶解する場合は、溶解物質に接触したり・吸引等をしてしないよう対応する事。

(4) Pb, Te, Se を含有する鋼は切削加工時に微量の蒸発の可能性がある為、フード等での作業が望ましい。

(5) 保管する上で通常の状態では、危険・有害性の面で該当事項はない。

8. 暴露防止措置及び保護措置 : 形状のある固体である為、該当する事項はない。

9. 物理・化学的性質

外 観 : 特殊鋼鋼材（固体）

引 火 点 : 該当なし。但し加工により生じた微粉は燃焼、爆発性を有する場合がある。

融 点 : 1400℃以上

比 重 : 7 ~ 8

10. 安全性・反応性

安 定 性 : 通常状態では化学的に安定している。

有害分解物質 : 加熱、溶解、研磨、等加工時には金属化合物を生成する。

11. 有害性情報 : 炭素鋼、合金鋼としては、現在のところ有害な情報はない。

12. 環境影響情報 : 炭素鋼、合金鋼としては、現在のところ有害な情報はない。

13. 廃棄上の注意 : 鋼材スクラップとしてリサイクルできる。

14. 輸送上の注意 : 炭素鋼、合金鋼としては該当する事項はない。

15. 適用法 : 労働安全衛生法、P R T R 法

16. その他の情報

(1) 危険物データブック（東京消防庁 警防研究会）

(2) 主要 1000 種データ特別調査レポート（海外化学技術資料研究所）

(3) Metallic Alloys and Harmonization of Classification Criteria(OECD)

(4) 化学製品の安全性データシート（ISO 11014-1）

(5) 日本産業衛生学会勧告値、ACGIH(米国産業衛生専門家会議)勧告値

(6) 危険・有害物便覧（労働省安全衛生部監修：中央労働災害防止協会）

[その他] 記載内容の取り扱い

1. 記載内容以外の特異な取り扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、加工願います。

2. 記載の危険性、有害性、環境影響評価等に関しては情報提供であり、保証するものではありません。

1. 製品及び会社情報	製品名 鋼材（棒鋼・線材） 会社情報 会社名 新日鐵住金株式会社 住所 東京都千代田区丸の内2丁目6番1号 担当部門 棒線技術部 電話番号 03-6867-6748 Fax.番号 03-6867-3581 緊急連絡先および電話番号 同上																				
2 危険有害性	一般的な環境下では、現在のところ危険有害性に関する有用な情報なし。 ただし、溶接、溶断等にもなうヒュームや研削等による微粉は呼吸器、目他の粘膜を刺激する場合があります、アークは火傷を起こす場合がある。また、切削屑等は皮膚を傷つける場合がある。																				
3 組成、成分情報	単体/混合物区分 混合物(合金) 主な成分 1. 炭素系鋼材 <table><tr><th>成分</th><th>濃度[%]</th><th>CAS 番号</th><th>ICSC 番号</th><th>区分</th></tr><tr><td>鉄 [Fe]</td><td>残部</td><td>7439-89-6</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>炭素 [C]</td><td>1 以下</td><td>7440-44-0</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>マンガソ [Mn]</td><td>1 以下</td><td>7439-96-5</td><td>0174</td><td>1</td></tr></table> NCH6RS, NCH8R, NCH10R, NCH10RS, NCH15R, NCH17R,NCH20R 区分：—:対象外 1:労安法対象物質	成分	濃度[%]	CAS 番号	ICSC 番号	区分	鉄 [Fe]	残部	7439-89-6	—	—	炭素 [C]	1 以下	7440-44-0	—	—	マンガソ [Mn]	1 以下	7439-96-5	0174	1
成分	濃度[%]	CAS 番号	ICSC 番号	区分																	
鉄 [Fe]	残部	7439-89-6	—	—																	
炭素 [C]	1 以下	7440-44-0	—	—																	
マンガソ [Mn]	1 以下	7439-96-5	0174	1																	
4. 応急措置	必要な応急措置の後、必要に応じて医師の診断を受ける。下記は、応急措置の例である。 ・ヒューム等により呼吸困難を起こした場合は、呼吸補助をし、速やかに医師の診断を受ける。 ・アーク等により火傷した場合は、患部を冷やし、必要に応じて医師の手当を受ける。 ・ヒューム、微粉等が目他の粘膜を刺激する場合は、水で洗い流し、速やかに医師の診断を受ける。 ・切削屑等で皮膚を傷つけた場合は、傷口の清潔を保ち、必要に応じて医師の手当を受ける。																				
5. 火災時の措置	微粉は燃焼、爆発性を有する場合がある。																				
6. 漏出時の措置	一般的な環境下では、固体で漏出しない。																				
7. 取扱い及び保管上の注意	不必要な水濡れ、酸との接触、高温多湿の環境を避ける。 重量物の場合は落下等に注意する。																				
8. 暴露防止及び保護措置	一般的な使用環境下では、現在のところ暴露防止及び保護措置に関する有用な情報なし。 ただし、溶接、溶断、研削、切削等の作業の際は、ヒュームの吸引、粘膜への刺激やアーク、切削屑を防止するマスク、めがね、手袋、着衣等を使用する。																				
9. 物理的及び化学的性質	物理的状态 一般的な環境下では、銀白色の固体。 物理的性質 融点；1455～1535℃ 密度；約 7.8g/cm³																				

10. 安定性及び反応性	一般的な環境下では安定しており、反応性は小さい。 ただし、水や酸化性物質との接触により錆を生成する場合がある。このとき、酸欠、水素の発生をとまなうことがある。
11. 有害性情報	鋼材としては現在のところ人に対しての有害性に関する有用な疫学的情報なし。 ただし、合金成分の一部には単体元素としては、例えば8項のただし書きのような作業である濃度(例えば許容濃度)を越える場合には、有害性が指摘されている場合がある。有害性情報は例えば許容濃度提案理由書(日本産業衛生学会)、ICSC(厚生省生活衛生局監修)等から得られる。
12. 環境影響情報	現在のところ環境影響に関する有用な情報なし。 ただし、合金成分の一部には単体元素としては環境影響が指摘されている場合がある。環境影響情報は例えば許容濃度提案理由書(日本産業衛生学会)、ICSC(厚生省生活衛生局監修)等から得られる。
13. 廃棄上の注意	基本的に法的に許可を受けた廃棄物処理業者に委託する。付着物質等がある場合にはこの点にも留意する。
14. 輸送上の注意	重量物である場合は、荷崩れのないようにする。 雨水等の浸透を防ぐため、シート等の被覆をすることが望ましい。
15. 適用法令	労働安全衛生法
16. その他の情報	記載内容の問い合わせ先 新日鐵住金株式会社 棒線技術部 電話番号；03-6867-6748

本データシートは、日本工業規格 Z 7250:2010「化学物質安全データシート(MSDS) — 内容及び項目の順序(以下「JIS」という)に準じて作成されており、用語の定義は、JIS に従っています。また、内容の記述は、「製品安全データシートの作成指針」(社団法人 日本化学工業会、平成4年8月発行、平成5年4月一部改定・補足)を参考に致しました。

本データシートは、製品の安全な取扱いを確保するための「参考情報」として、作成時点で弊社の有する情報を取扱事業者にご提供するものです。取扱事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱い等の実体に応じた適切な処置を講ずることが必要です。

従って、本データシートは、製品の安全を保証するものではなく、本データシートに記載されていない弊社が知見を有さない危険性がある可能性があります。

安全データシート（SDS）

作成：2015年7月10日（改訂0版）

1. 製品及び会社情報

製品の名称：炭素鋼、合金鋼、ばね鋼、快削鋼、軸受鋼
〔Pb添加を除く〕

2. 危険有害性の要約

GHS分類及びGHSラベル要素

〔GHS分類〕

＜健康有害性＞

危険有害性項目	危険有害性区分	危険有害性情報
皮膚腐食性／刺激性	区分3	軽度な皮膚刺激
眼に対する重篤な損傷性 ／眼刺激性	区分2B	眼への刺激
呼吸器感作性	区分1	吸入するとアレルギー、ぜん息または呼吸困難を起こすおそれ
皮膚感作性	区分1	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
生殖細胞変異原性	区分2	遺伝性疾患のおそれの疑い
発がん性	区分2	発がんのおそれの疑い
生殖毒性	区分1B	生殖能または胎児への悪影響のおそれ
特定標的臓器毒性 （単回ばく露）	区分1 （呼吸器、腎臓、 消化器）	臓器の障害（呼吸器、腎臓、消化器）
	区分2 （全身毒性）	臓器の障害のおそれ（全身毒性）
	区分3 （気道刺激性）	呼吸器への刺激のおそれ
特定標的臓器毒性 （反復ばく露）	区分1 （呼吸器、神経系）	長期にわたる、または反復ばく露による臓器の障害

※上記に記載がない危険有害性項目は、「区分外」、「分類対象外」、または「分類できない」。

＜環境有害性＞

危険有害性項目	危険有害性区分	危険有害性情報
水生環境有害性（長期間）	区分4	長期継続的影響によって水生生物に有害のおそれ

※上記に記載がない危険有害性項目は、「区分外」、「分類対象外」、または「分類できない」。

【GHSラベル要素】

＜絵表示又はシンボル＞



＜注意喚起語＞

危険

＜注意書き＞

安全対策

- すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202)
- 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。(P280)
- 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)
- 換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。(P284)
- 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。(P260、P261)
- 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。(P272)
- この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)
- 取り扱い後はよく手や眼を洗うこと。(P264)
- 環境への放出を避けること。(P273)

応急措置

- 吸入した場合、被災者を空気の新鮮な場所に移動させ、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
- 呼吸に関する症状が出た場合、医師に連絡すること。(P342+P311)
- 気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。(P312、P314)
- 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
- 眼の刺激が続く場合、医師の診断/手当てを受けること。(P337+P313)
- 皮膚に付着した場合、多量の水と石けんで洗うこと。(P302+P352)
- 皮膚刺激又は死しんが生じた場合、医師の診断/手当てを受けること。(P332、P333+P313)
- ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断/手当てを受けること。(P308+P313)
- 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。(P362+P364)

保管（貯蔵）

- 施錠して保管すること。(P405)

廃棄

- 内容物/容器を国際、国、都道府県、又は市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)

3. 組成及び成分情報 単体/混合物の区分:混合物（合金）

＜主要成分＞

化学名又は一般名	濃度範囲 (%)	CAS No.	化管法(*1) 号番号	労安法(*2) 政令番号
マンガン [Mn]	0 ~ 3.0	7439-96-5	第一種 412	550
銅 [Cu]	0 ~ 5.0	7440-50-8	該当なし	379
ニッケル [Ni]	0 ~ 8.0	7440-02-0	第一種 308	418
クロム [Cr]	0 ~ 10	7440-47-3	第一種 87	142
モリブデン [Mo]	0 ~ 3.0	7439-98-7	第一種 453	603
タングステン [W]	0 ~ 1.0	7440-33-7	該当なし	337
バナジウム [V]	0 ~ 1.0	7440-62-2	該当なし	該当なし
コバルト [Co]	0 ~ 1.0	7440-48-4	第一種 132	172
アルミニウム [Al]	0 ~ 1.0	7429-90-5	該当なし	該当なし
チタン [Ti]	0 ~ 1.0	7440-32-6	該当なし	該当なし
ニオブ [Nb]	0 ~ 1.0	7440-03-1	該当なし	該当なし
鉄 [Fe]	残	7439-89-5	該当なし	該当なし

(*1) 化学物質排出把握管理促進法

(*2) 労働安全衛生法

注1) 成分の濃度は、上表の範囲において、鋼種の規格により異なる。

注2) 上記主要成分の他に、炭素[C]、ケイ素[Si]、リン[P]、硫黄[S]、窒素[N]等の微量元素を含む。

4. 応急措置

前記「2. 危険有害性の要約」を参照のこと。

5. 火災時の措置

本製品は、一般的な環境下では固体の状態であり、周辺の火災時にも、消火器や水による消火を行なっても問題はない。

ただし、微粉や粉じんは、燃焼性、爆発性を有する可能性があり、水をかけると、燃焼の助長や爆発の可能性があり、そのため、窒息効果のある消火剤（金属火災用消火器、乾燥砂など）を使用すること。

6. 漏出時の措置

本製品は、一般的な環境下では固体の状態であるため、漏出することはない。

ただし、溶接・溶断・切断・研削などの加工により、ヒュームや粉じんが発生する場合、下記に記載する措置を実施すること。

(1) 人体に対する注意事項

適切な保護具を着用し、ヒュームや粉じんの吸入や眼への侵入を防ぐこと。

(2) 保護具及び緊急時措置

適切な呼吸用保護具、保護手袋、保護眼鏡、保護衣、安全靴などの保護具を着用すること。

もし呼吸器や目など身体に異常がある場合、直ちに医師の診断、手当てを受けること。

(3) 環境に対する注意事項

切断・研削などの加工により発生した粉じんなどは、速やかに回収すること。

(4) 封じ込め及び浄化の方法及び機材

切断・研削などの加工により発生した粉じんなどは、適切な方法で速やかに回収し、回収された

粉じんなどは飛散しないように適切な容器に入れるなどして、漏出防止すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

<取扱い>

(1) 技術的対策

本製品を溶接・溶断・切断・研削などの加工を行なうと、ヒュームや粉じんなどが発生する場合、必要な換気（局所排気／全体廃棄など）を実施すること。また、取扱者の呼吸器、皮膚、目、及び、身体を保護するため、適切な保護具を着用すること。

(2) 安全取扱い注意事項

本製品は重量物のため、転倒、荷崩れ、落下に注意すること。

本製品の切断端部や切削屑などは、「バリ」「カエリ」などにより皮膚や眼などを傷つける場合があるため、注意すること。

溶接、溶断などにともなうアークはやけどを及ぼす場合があるため、注意すること。

切断や研削で生じた微粉・粉じんは、燃焼性、爆発性を有する可能性があるため、注意すること。

結束および梱包フープ（バンド）の切断時に、フープの跳ね返りやフープ先端に注意すること。

コイル製品の場合、結束フープ（バンド）の切断時に、コイル先端が跳ね上がる可能性があるため、注意すること。

<保管>

(1) 安全な保管条件

水濡れ、酸、アルカリもしくはこれらを含んだ物質との接触を避けること。

高温多湿の環境を避けること。必要に応じて、雨水との接触防止および錆防止のため、シートやカバーなどで覆うこと。

切断や研削で生じた微粉・粉じん・切削屑を保管する場合、飛散しないようにカバーなどで覆うこと。

8. ばく露防止及び保護措置

一般の環境下では固体であり、ばく露防止や保護装置に関する有用な情報はない。

ただし、溶接や溶断あるいは切断や研削等の加工の実施により、粉じんやヒュームなどが発生する場合、換気対策を実施するなどして適切な作業環境を確保すると同時に、適切な呼吸用保護具、保護手袋、保護眼鏡、保護衣、安全靴などの保護具を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

(1) 外 観：特殊鋼鋼材（剛体）

(2) 引 火 点：一般の環境下で引火しない。

ただし、加工により生じた微粉は、燃焼性、爆発性を有する可能性がある。

(3) 融 点：1370℃ 以上

(4) 比 重：7～9 g/cm³

(5) 溶 解 度：水には不溶

10. 安定性及び反応性

(1) 反応性、化学的安定性、危険有害反応可能性

一般の環境下では安定している。水や酸などの化学物質と接触すると、有害なガスの発生や腐欠の原因となる可能性がある。

(2) 避けるべき条件

酸液などとの接触を避ける。

(3) 混合危険物質

酸液など。

(4) 危険有害性のある分解生成物

本製品を溶接・溶断などの加工する場合に発生するヒューム中や、酸液などにより溶けだした溶液中に有害な化合物が含まれる可能性がある。

1 1. 有害性情報

前記「2. 危険有害性の要約」を参照のこと。

1 2. 環境影響情報

前記「2. 危険有害性の要約」を参照のこと。

1 3. 廃棄上の注意

本製品、端材、切屑屑など、及び、梱包材を廃棄する場合、廃棄物処理法に関する法律、都道府県または市町村の定める関連条例などに従って、適切な方法で処分すること。

1 4. 輸送上の注意

運搬時には、落下や転倒、荷崩れ等に注意すること。

1 5. 適用法令

(1) 労働安全衛生法

(2) 化学物質排出把握管理促進法

1 6. その他の情報

<参考資料等>

(1) GHS 対応 化学法・安衛法におけるラベル表示・SDS 提供制度

(平成 24 年 10 月 経済産業省 厚生労働省)

(2) 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 (NITE) ホームページ

(3) 職場の安全サイト ホームページ (厚生労働省)

※この安全データシートは、現時点で入手できる資料・情報に基づいて作成しています。

この安全データシートは、弊社製品の安全な取扱いを確保するための参考情報を提供するものであり、弊社製品の安全性を保証するものではありません。

弊社製品の取扱いにあたっては、取扱い事業者自らの責任において、用途・用法に適した安全対策を講ずる必要があることをご理解のうえ、この安全データシートをご利用ください。

以上

安全データシート

製品名： プライムポリプロ J-452HP

整理番号： P10301-00
作成： 2010/10/27
改訂： 2013/1/31特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)
吸引性呼吸器有害性
水生環境有害性(急性)
水生環境有害性(慢性)分類できない
分類できない
分類できない
分類できない

GHSラベル要素

絵表示：非該当

注意喚起語：非該当
危険有害性情報：非該当
注意書き：非該当

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別： 混合物
成分及び含有量

成分名称	含有量 wt. %	CAS#	官報公示整理番号		安衛法 通知対象	PRTR法	毒劇法
			化審法	安衛法			
エチレン・プロピレンコポリマー	>99	9010-79-1	(6)-10	-	非該当	非該当	非該当
添加剤（酸化防止剤等）	<1	非公開	非公開	非公開	非該当	非該当	非該当

4. 応急措置

吸入した場合：

高温の熔融樹脂から発生するガスを多量に吸入した場合は、空気の新鮮な場所に移すこと。症状変化が現れた場合には、直ちに医師の手当を受けること。

被災者が呼吸していて嘔吐がある場合は、頭を横向きにする。呼吸に関する症状が出た場合には、直ちに医師の手当てを受けさせること。

呼吸が止まっている場合又は呼吸が弱い場合には、衣服を緩め、呼吸気道を確保した上で人工呼吸（又は酸素吸入）を行う。

身体を毛布などで覆い、保温して安静に保ち、直ちに医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合：

汚染された衣類、靴等を速やかに脱ぐ。
付着した製品を拭き取り、水又はぬるま湯で洗い流しながら石鹸を使ってよく洗い落とす。皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断／手当てを受ける。
熔融物が皮膚に付着した場合は、衣服の上から多量の水をかけて十分に冷却する。

皮膚に貼り付いたポリマーや衣服は無理に剥がさないで、直ちに医師の手当てを受けること。

目に入った場合：

直ちに清浄な水で15分以上洗浄する。
洗浄の際、可能ならばまぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水が行き渡るよう洗浄すること。

コンタクトレンズを使用している場合には、固着していない限り、取り除いて眼を洗浄すること。

異物感が眼に残る様であれば、速やかに眼科医の手当てを受けること。

飲み込んだ場合：

水で口の中を洗浄し、コップ数杯の水または牛乳を飲ませて、直ちに医師の手当てを受けること。

可能であれば、指を咽喉に差し込んで吐き出させる。
被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。

安全データシート

製品名： プライムポリプロ J-452HP

整理番号： P10301-00
作成： 2010/10/27
改訂： 2013/1/31

5. 火災時の措置

消火剤： 霧状水、粉末、二酸化炭素、泡
使ってはならない消火剤： 棒状に噴出する水
火災時の特有の危険有害性： 火災条件下で熱分解し、空気と混合して爆発性混合気を生じる恐れがある。
特有の消火方法： 移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移すこと。
消火を行う者の保護（保護具等）： 可能であれば、周囲の設備などに散水して、冷却すること。
火災発生場所の周辺に、関係者以外の立ち入りを禁止すること。
消火作業の際は、状況に応じた保護具を必ず着用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置： 漏出した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。
作業の際は保護具を着用し、接触および粉じんの吸入を避けること。
この製品がこぼれた場所は、滑りやすいので注意すること。
高温の熔融樹脂から発生するガスは、眼や呼吸器を刺激する恐れがある。
環境に対する注意事項： 環境においては長期間分解しないため、環境汚染の原因となるが、ポリマーの水溶解性は無視できるので、水性生物に対する毒性は弱いと思われる。
環境への影響を起こさないよう河川などに放出しない。
ペレットやパウダーは海洋生物、鳥類が誤って食べることがあるので、いかなる海洋や水域にも投棄、放出してはならない。
封じ込め及び浄化の方法、機材： 飛散したものは、掃き集めて紙袋またはドラムなどに回収すること。
掃除機が粉じんを撒き散らす元とならないように注意。
熔融状態で漏出したときは、水等で冷却し、固化した後に回収すること。
二次災害の防止策： 周囲の着火源となるものを速やかに取り除く。
火花を発生しない安全な用具を使用する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い
技術的対策： 防爆型の電気機器／換気装置／照明機器、及び火花を発生しない工具を使用すること。
電気機器類は防爆構造の物を用い、静電気対策を行なうこと。
取扱場所は換気を良くし、その周辺での火気、スパーク、高温物の使用は禁止する。
吸入、皮膚への接触を防ぎ、また眼に入らないよう適切な保護具を着用すること。
取扱場所の近くには、手洗い、洗眼等の設備を設け、取扱後に、手、顔等をよく洗う。
局所排気・全体換気： 取扱う場合は、局所排気内又は全体換気の設備のある場所で取扱う。
注意事項： 空気と混合して粉じん爆発の可能性があるため、これらの滞留を避けること。
安全取扱い注意事項： 使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
局所排気内又は全体換気の場所で取り扱うこと。
粉じん、高温の熔融樹脂ガスが発生しない様に取り扱う。
熔融物との接触の防止のため適切な個人用保護具を着用する。
ペレットやパウダーは、床に残ると滑りやすいので、常に清掃して取り除くこと。

安全データシート

製品名： プライムポリプロ J-452HP

整理番号： P10301-00
作成： 2010/10/27
改訂： 2013/1/31

保管

適切な保管条件： 直射日光を避け、火気、熱源から遠ざけて保管すること。
換気の良い冷暗所に保管し、高温、高湿を避ける。
屋内貯蔵を原則とする。

安全な容器包装材料： 製品使用容器に準じる。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策： 取扱場所には、全体換気装置を設置すること。
できるだけ、密閉された装置・機器又は局所排気装置を使用する。
取扱場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設置すること。

許容濃度

成分名称	安衛法 管理濃度	日本産業衛生学会		ACGIH (TLV-TWA)	
		吸入性粉塵	総粉塵	呼吸性粉塵	吸入性粉塵
		(mg/m ³)	(mg/m ³)	(mg/m ³)	(mg/m ³)
ポリプロピレン	未設定	2	8	3	10

保護具

呼吸器の保護具： 指定された個人用保護具を使用すること。
防塵マスク

手の保護具： 指定された個人用保護具を使用すること。
保護手袋

目の保護具： 指定された個人用保護具を使用すること。
保護眼鏡（ゴーグル）、保護面

皮膚及び身体の保護具： 指定された個人用保護具を使用すること。
安全帽、保護衣、安全靴

9. 物理的及び化学的性質

製品

物理的状態： 固体

形状： ペレット

色： 白色又は乳白色

臭い： ほとんど無臭

融点・凝固点： 150－165(℃)

引火点： データ無し

自然発火温度： >280(℃) ASTM E659

燃焼又は爆発範囲： データなし

比重： 0.89－0.92(23℃)

溶解性： 水：ほとんど不溶

分解温度： データなし

10. 安定性及び反応性

安定性： 通常の取扱いでは安定である。

危険有害反応可能性： 酸化剤と反応する。

避けるべき条件： 高温、高湿雰囲気下での保管を避ける。
火源との接触を避ける。

混触危険物質： 酸化剤との混合、接触を避ける。

危険有害な分解生成物： 一酸化炭素、二酸化炭素、炭化水素及びその酸化物。

安全データシート

製品名： プライムポリプロ J-452HP

整理番号： P10301-00
作成： 2010/10/27
改訂： 2013/1/31

1 1. 有害性情報

製品

急性毒性（経口）：	データ無し
急性毒性（経皮）：	データ無し
急性毒性（吸入）：	データ無し
皮膚腐食性／刺激性：	データ無し
眼に対する重篤な 損傷性／刺激性：	データ無し
呼吸器感作性：	データ無し
皮膚感作性：	データ無し
生殖細胞変異原性（変異原性）：	AMES試験：データ無し，染色体異常試験：データ無し
発がん性：	IARC:3（ポリプロピレンとして）
生殖毒性：	データ無し
特定標的毒性／全身毒性－単回暴露：	データ無し
特定標的毒性／全身毒性－反復暴露：	データ無し
吸引性呼吸器有害性：	データ無し

1 2. 環境影響情報

製品

生態毒性	
急性毒性（魚毒性）：	データ無し
急性毒性（ミジンコ毒性）：	データ無し
急性毒性（藻類成長阻害）：	データ無し
慢性毒性（魚毒性）：	データ無し
慢性毒性（ミジンコ毒性）：	データ無し
慢性毒性（藻類成長阻害）：	データ無し
残留性／分解性：	環境においては長期間分解しない
生体蓄積性：	データ無し
土壌中の移動性：	データ無し

1 3. 廃棄上の注意

廃棄方法： 焼却処理を行なう場合、完全に分解させるために燃焼室の温度を800℃以上に保持する。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託し、関係法令を遵守して適正に処理する。
空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

1 4. 輸送上の注意

国連分類： 国連定義の危険物に該当しない。

1 5. 適用法令

消防法：	指定可燃物（（合成樹脂類）発泡させたもの：20m ³ 、その他のもの：3000kg）
毒劇法：	非該当
安衛法：	非該当
化審法：	非該当
PRTR法：	非該当

安全データシート

製品名： プライムポリプロ J-452HP

整理番号： P10301-00
作成： 2010/10/27
改訂： 2013/1/31

外国為替及び外国貿易管理法、輸出貿易管理令

別表16項該当品目（キャッチオール規制物質）（輸出の際に許可申請要件（客観要件、インフォーム等）に該当する場合、輸出許可が必要。）

16. その他の情報

備考

本製品は樹脂ペレットであり、練り込まれている化学物質のみが飛散することはありません。なお、本SDSの第2章に記載した有害性情報は、JIS Z7252:2009（GHSに基づく化学物質等の分類方法）の「混合物の分類基準」に従って分類した結果を記載しています。

参考文献等：

化審法の既存化学物質 安全性点検データ集（化学品検査協会）
国際化学物質安全性カード 日本語版（化学工業日報社）
環境化学物質要覧（環境庁環境化学物質研究会）
新版危険・有害性便覧（中央労働災害防止協会）
自社データ
原材料のSDS
化学品安全管理データブック（化学工業日報社、2000）
樹脂ペレット流出防止マニュアル（日本プラスチック工業連盟、1993）
IARC Monographs on the Evaluation of Carcinogenic Risks to Humans
RTECS (U.S. DEPARTMENT OF HEALTH AND HUMAN SERVICE)
JIS Z7252:2009 GHSに基づく化学物質等の分類方法

免責文：

記載内容は現時点で入手できた情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。危険有害性の評価結果は、今後の新しい知見で改訂されることもあります。また、記載事項は当該製品についての通常の取扱いを対象にしております。特別な取扱いや他の成分との組み合わせ使用の場合は用途・用法に適した安全対策を実施の上お取扱い願います。

製品名: SANTOPRENE (TM) THERMOPLASTIC VULCANIZATE - 8000 SERIES
 改訂日: 24Apr2009
 ページ 1 / 10

化学物質安全性データシート

セクション 1 製品および会社情報

上記改訂日現在、このMSDSは日本の法規に対応している。

製品

製品名: SANTOPRENE (TM) THERMOPLASTIC VULCANIZATE - 8000 SERIES
 製品の説明: エラストマー, 適用されるグレードはセクション16を参照。
 主用途: 自動車用途
 , 食品との接触, パーソナルケア, 医薬品, 多くの工業用途

会社情報

供給者: エクソンモービル有限会社 (化学品本部)
 〒108-8005
 東京都港区港南1-8-15
 東京 108-8005 日本

24時間対応緊急番号 -
 製造者連絡先 (代表) 03-5495-6000

セクション 2 組成、成分情報

報告対象有害物質

名称	CAS#	化審法化学物質	濃度*	記号/リスク用語
焼成粘土	66402-68-4		< 15%	Xi; R36/37/38
カーボンブラック	1333-86-4	(5)-5222	0 - 10%	
炭酸カルシウム	1317-65-3	(1)-122	< 15%	

* ガスの濃度は容量パーセントで表し、それ以外は重量パーセントで表す。

注意事項: 本製品は、スリップ剤とブロック防止剤、酸化防止剤および安定剤などの添加剤を、様々な割合で含有している可能性がある。上記の表にある物質は1つ以上の製品グレードに含まれているが、全てのグレードに含まれているとは限らない。

日本の成分情報

労働安全衛生法 57条2項、通知対象物質

名称	労働安全衛生法 物質番号	濃度
カーボンブラック	130	1-5 %weight

労働安全衛生法: 57条-2項、通知対象物質:

製品名: SANTOPRENE (TM) THERMOPLASTIC VULCANIZATE - 8000 SERIES

改訂日: 24Apr2009

ページ 2 / 10

名称	労働安全衛生法 物質番号	濃度
鉱物油	168	10-20 重量%

PRTR第1種指定化学物質: なし。

PRTR第2種指定化学物質: なし。

セクション 3 危険有害性の要約

この物質は、規制に基く有害物とはみなされない。(セクション 15を参照)

物理的/化学的有害性

固い床に飛散した樹脂ですべる危険がある。 熱傷の危険 - 高温の物質に接触すると、熱傷することがある。

人体への有害性

毒性は低い。 吸入による悪影響は予測されない。 加熱した場合、生じた蒸気/煙霧は呼吸器管に刺激を与える恐れがある。

セクション 4 応急処置

吸入

温度上昇により発生したベーパー又は煙霧に曝露した場合、直ちにその人を曝露されない場所に移す。呼吸が停止している場合は人工呼吸の処置をする。安静を保つ。

皮膚との接触

石鹼と水で接触した部分を洗浄する。 高温製品について: 直ちに冒された箇所を大量の冷水に浸けるか、洗い流し、熱を放散させる。清潔な木綿布またはガーゼで覆い、すぐに医療処置を受ける。

眼との接触

水で完全に洗い流す。もし刺激が治まらない場合は医師の手当を受ける。

経口摂取

応急処置は通常必要ない。もし違和感がある場合は、医師の手当てを受ける。 経口摂取による有害作用は予測されない。

セクション 5 火災時の措置

製品名: SANTOPRENE (TM) THERMOPLASTIC VULCANIZATE - 8000 SERIES
改訂日: 24Apr2009
ページ 3 / 10

消火剤

適切な消火剤: 消火には噴霧水、泡、ドライケミカル、炭酸ガスを使う。

不適切な消火剤: 直接の水噴射

消火

消火方法: 再発火を防ぐため十分な冷却を確実に行なう。その現場から避難させる。消火剤やその希釈剤が、水路、下水、あるいは上水道へ流入することを防ぐ。消防士は、標準の防護装備を使用し、建物内部やタンク内等では内蔵型呼吸機 (SCBA) を用いる。火災にさらされた部分を冷却したり、人を火災から保護するために噴霧水を使用する。

有害な燃焼生成物: 煙、煙霧、不完全燃焼時の生成物、炭素酸化物、酸化窒素類、ホルムアルデヒド、可燃性炭化水素

燃焼特性

引火点 [試験法]:

燃焼範囲 (おおよその空気中の容量%): 下限: データなし 上限: データなし

発火点: 適用外

セクション 6

漏出時の措置

通知手順

流出または放出事故が起きた場合、すべての適用法令に従って関係当局に通知する。

流出管理

陸上での漏出: 固い床に飛散した樹脂ですべる危険がある。乾燥した固形物の少量流出: 清浄なシャベルですくい、乾燥した清浄な容器に移す、緩めにフタをして、流出場所から容器を移す。

海上での漏出: 危険を冒さずにできる場合は、漏れを停止させる。直ちにオイル・フェンスにより、流出物を閉じこめる。表面からすくい取る。

海上での漏出および陸上での漏出についての記載内容は、この物質の最も起こりそうな漏出シナリオに基づいている。しかし、地理的条件、風向、気温、海上での漏出の場合は波、流れの方向、速度によってとるべき行動がおおきな影響を受けるかもしれない。こういった場合、その地方の専門家に相談すべきである。注: その地方の規制により、とるべき行動が指示あるいは制限されていることがある。

環境上の予防措置

水路、下水道、地下または閉塞された所へ流入することを防ぐ。

セクション 7

取扱い及び保管上の注意

製品名: SANTOPRENE (TM) THERMOPLASTIC VULCANIZATE - 8000 SERIES
 改訂日: 24Apr2009
 ページ 4 / 10

取扱い

粉塵を発生する条件は避ける。 長期間にわたる温度の上昇は避ける。 加熱物質から発生するガスを避け、潜在的に有毒性／刺激性でありうる煙霧への暴露を防止する。 適切なアースまたは接地の手順に従うこと。 煙霧またはガス等の蒸気が発生する場合、適切な換気を行う。 滑りによる事故防止のため、少量のこぼれ、洩れを避けること。 炎、熱源または着火源の近くでの、取扱い、貯蔵、または開放はしてはいけない。 直射日光を避ける。 本製品の貯蔵および取り扱いは、注意を要する。 本製品の特性の他に、湿気、日光および温度のような条件は、貯蔵および取り扱い中に本製品の変化を起こす。 バッグや他の容器の不適切な積み上げをしないよう注意が必要である。 実際、本製品をいれた袋はある条件下で形状が不安定になることがある。 移送中、加熱しないこと。

積み／降ろし温度: [常温常圧]

輸送温度: [常温常圧]

輸送圧力: [常温常圧]

静電気蓄積: 本物質は静電気を蓄積しない。

保管

冷所で乾燥した場所に貯蔵する。 密栓していない、あるいは製品表示のない容器には貯蔵しないこと。

貯蔵温度: [常温常圧]

貯蔵圧力: [常温常圧]

適切な容器/包装: 袋類 (20/25kg); 箱類

適性物質及び適性塗装: アルミニウム; ポリエチレン

セクション 8

暴露防止及び保護措置

許容濃度

許容濃度/基準値 (注記: 複数の値がある場合、加算的ではない)

物質名	形態	許容値/規格			注意事項	出典	年
炭酸カルシウム	呼吸可能な粉塵	TWA	2 mg/m ³			日本 OEL-JSOH	2007
炭酸カルシウム	粉塵総量	TWA	8 mg/m ³			日本 OEL-JSOH	2007
カーボンブラック	呼吸可能な粉塵	TWA	1 mg/m ³			日本 OEL-JSOH	2007
カーボンブラック	粉塵総量	TWA	4 mg/m ³			日本 OEL-JSOH	2007
カーボンブラック		TWA	3.5 mg/m ³			ACGIH	2008

本製品取扱時、生成する物質の許容濃度/基準値: 粉塵状態に対して、ACGIHは、別段の要求のない限り、不溶性粒子として10 mg/m³ (吸入により曝露され得る成分) と3 mg/m³ (呼吸により曝露され得る成分) の曝露許容濃度を採用している。

製品名: SANTOPRENE (TM) THERMOPLASTIC VULCANIZATE - 8000 SERIES

改訂日: 24Apr2009

ページ 5 / 10

注: 許容濃度/基準値は目安として示されている。適用される規制に従う。

設備的対策

必要な保護レベルと管理方法は、潜在する曝露条件によって変わる。以下の対策を考慮する;

許容濃度を超えないために、適切な換気を行う。 特別注意事項: この製品は加熱下で多量のベーパーまたは煙霧を発生する。作業場で温度上昇により生じる副生物(酸化物など)の存在をモニターすることを勧める。曝露を防ぐため適切な換気またはその他の対策を確実に行う。熱による副生物質のACGIH-TLVを確認のこと。さらなる情報を得る場合は当社の担当に連絡する。

保護具

どの保護具を選択するかは、用途、取扱い方法、濃度および曝露され得る可能性により左右される。本物質を使用する際の保護具の選択についての情報は、以下に示すように、想定し得る通常の使用方法に基づいている。

呼吸器用保護具: 設備的対応によっても空気中の濃度が、作業員の健康を保護するのに適切なレベルに保たれていない場合、国家検定合格の呼吸保護具を使用することが適当と思われる。該当する場合は、呼吸保護具の選定、使用および保守は法令に従わなければならない。本物質用に考えられる呼吸保護具のタイプは以下の通りである:

通常の使用状況で適切に換気してあれば、特別に必要なものはない。

空気中の濃度が高い場合、承認された空気供給式呼吸器を加圧モードで使用する。酸素レベルが適当ではない、ガス/蒸気の警告特性が貧弱、空気浄化フィルターの容量/定格オーバーの場合は、緊急ボンベ付き空気供給式呼吸器の使用が適切であると思われる。

保護手袋: ここで提供している具体的な保護手袋に関する情報は、公表された文献及び、保護手袋の製造業者のデータに基づいている。保護手袋の適合性及び、浸透時間は、具体的な使用条件により相違する。保護手袋の選定における明確なアドバイス及び、使用条件での浸透時間については、保護手袋の製造業者に問い合わせること。また、使用前に保護手袋を検査して、すり切れたり、損傷ある手袋は、交換すること。本製品を使用する際に、推奨できる保護手袋の種類は、次の通りである:

もし製品が熱い場合、耐熱・耐化学薬品性の保護手袋を着用すること。また、前腕への接触がありそうな場合には、長手袋を着用すること。

保護眼鏡: 接触が生じそうな場合、側面シールド付き保護メガネが推奨される。

保護衣: 提供された個々の保護衣に関する情報は、公表された文献および製造業者のデータに基づいている。本物質用に考えられる保護衣のタイプは以下の通りである:

もし製品が熱い場合、耐熱、耐化学薬品性のエプロンおよび長袖の衣服を着用すること。

衛生措置: 本物質を取り扱った後、手を洗ってから飲食や喫煙をするなど、常に個人で適切な衛生的措置を続ける。汚染物質を取り除くために定期的に作業着と保護具を洗濯する。洗濯できない汚染された衣類及び靴などは廃棄する。確実な備品管理を実施する。

環境規制

セクション6, 7, 12, 13を参照。.

製品名: SANTOPRENE (TM) THERMOPLASTIC VULCANIZATE - 8000 SERIES

改訂日: 24Apr2009

ページ 6 / 10

セクション 9 物理的及び化学的性質

代表的な物理的および化学的特性は以下の通りである。 その他のデータについてはセクション1の供給業者に相談のこと。

一般情報

物理的状态: 固体

形態: ペレット

色: ナチュラル (着色可能) またはブラック

臭気: ゴム状

臭気閾値: データなし

健康, 安全, および環境に関する重要な情報

比重 (@ 20 °C): 0.9 - 1

密度: 900 kg/m³ (7.51 lbs/gal, 0.9 kg/dm³) - 1000 kg/m³ (8.35 lbs/gal, 1 kg/dm³)

引火点 [試験法]:

燃焼範囲 (およそその空気中の容量%): 下限: データなし 上限: データなし

発火点: 適用外

沸点 / 範囲: 適用外

蒸気密度 (空気 = 1): 適用外

蒸気圧: 適用外

蒸発率 (N-ブチル酢酸 = 1): 適用外

pH: 適用外

Log Pow (n-オクタノール/水分配係数): 適用外

水への溶解性: 無視できる

粘度: 適用外

酸化能力: セクション 3, 15, 16 を参照

その他の情報

凝固点: データなし

融点: 175°C (347° F) - 230°C (446° F)

吸湿性: No

セクション 10 安定性及び反応性

安定性: 通常状態で安定。

避けるべき条件: 長期間にわたる温度の上昇は避ける。高温。 >260 °C (500 °F)

相反性物質: 強酸化剤, ハロゲン化合物, フェノール樹脂, アセタール樹脂

有害な分解生成物: この物質は、常温では分解しない。

有害な重合: 起こらない。

製品名: SANTOPRENE(TM) THERMOPLASTIC VULCANIZATE - 8000 SERIES

改訂日: 24Apr2009

ページ 7 / 10

セクション 11	有害性情報
----------	-------

急性毒性

暴露経路	結論/備考
吸入	
毒性: データ有り	毒性が極めて低い。類似構造物質の試験データに基づく
炎症: データ有り	常温/通常取り扱う温度では、無視できる有害性しかない。類似構造物質の試験データに基づく
経口摂取	
毒性: データ有り	毒性が極めて低い。類似構造物質の試験データに基づく
皮膚	
毒性: データ有り	毒性が極めて低い。類似構造物質の試験データに基づく
炎症: データ有り	常温では、皮膚の炎症は殆ど起きない。類似構造物質の試験データに基づく
眼	
炎症: データ有り	眼に、短い時間軽度な不快感を及ぼす恐れがある。類似構造物質の試験データに基づく

慢性的影響

製品:

粉塵は眼および呼吸器官に刺激を与えることも有り得る。

温度が上昇するもしくは機械的な動きにより、蒸気、ミスト、煙霧をつくるが、これらが眼および呼吸器系を刺激することがある。

ポリマー内の添加剤を含む。通常の取扱いや使用条件では、この添加剤は健康有害性を呈さない。しかしながら、ポリマーを潰すことは推奨しない。

内容物:

カーボンブラック: 動物実験で、ある種のカーボンブラックが発癌性であることが証明されている。動物を使った高濃度吸入試験では、慢性炎症、肺線維症および肺腫瘍が発生した。作業者に対して行った疫学的研究では、気管支炎、肺炎、気腫および度を越した癌が観察されている。ポリマーあるいは他のマトリックスの中に結合した物質は、殆どもしくは全く有害性が無い。

要求により追加情報が入手出来る。

IARC 分類:

以下の成分は下の規制リストに該当: :

化学名	CAS 番号	リスト引用
カーボンブラック	1333-86-4	3

製品名: SANTOPRENE (TM) THERMOPLASTIC VULCANIZATE - 8000 SERIES

改訂日: 24Apr2009

ページ 8 / 10

---探索した規制リスト---

1 = IARC 1

2 = IARC 2A

3 = IARC 2B

セクション 12

環境影響情報

ここに示す情報は、この物質、成分および類似物質のデータに基づいている。

生態毒性

物質 --- 水生生物に対して有害性あるとは予測されない。

移動性

物質 --- 本物質は、溶解度が低く、浮遊し、水中から陸地に移動することが予測される。汚泥ならびに汚水固形物として分離し得る。

残存性および分解性

生物分解:

物質 --- 残留性が予測される。

セクション 13

廃棄上の注意

供給された物質を適切に廃棄する。廃棄に際しては、その時点での廃棄物の状態に応じて、適用される法律、規制に従わなければならない。

廃棄に関する勧告

適切な廃棄方法として、廃棄時の物質の状態に応じて該当法令を遵守し、管理された焼却炉(熱回収設備があれば優先する)で焼却するか、適切なリサイクルをすることを勧告する。

セクション 14

輸送上の注意

陸上輸送手段及び輸送条件の注意事項:

その他関係法令の定めるところに従う。

海上輸送 (IMDG) : IMDGコードによると、海上輸送では規制対象外

航空輸送 (IATA) : 空輸に関する規定無し

製品名: SANTOPRENE(TM) THERMOPLASTIC VULCANIZATE - 8000 SERIES
改訂日: 24Apr2009
ページ 9 / 10

セクション 15	適用法令
----------	------

規制現状および適用法令

以下の国／地域の既存化学物質名簿に記載:
EINECS, TSCA

適用法令:

化審法: 既存化学物質
消防法: 指定可燃物 - その他のもの(指定数量 3,000kg)
労働安全衛生法: 通知対象物質

セクション 16	その他の情報
----------	--------

N/D =情報なし, N/A =非該当

本書2章と3章に記載されている危険コードの説明(情報のみ):

R36: 眼に刺激性。
R37: 呼吸器系に刺激性。
R38: 皮膚に刺激性。

本安全データシートの改訂状況は以下のとおり。
改訂の情報なし

このSDSは、以下を対象とする。: ~で始まるサントプレーンのグレード: | 291 | 8123 | 8191 | 8201 |
8203 | 8211 | 8221 | 8223 | 8271 | 8281 | 8291 | 9911 | X 8191 | X 8211 | X 8291

この文書に含まれる情報および推奨事項は、エクソンモービルが有する情報および知見の範囲の限りで、発行時において正確且つ信頼できるものです。この文章が最新版であることを確認する場合はエクソンモービルにご連絡ください。この文書の情報および推奨事項は、使用者による検討、調査のために提供されています。本製品の特定の使用目的への合致の有無については使用者においてご確認ください。本製品の購入者が荷姿を変更する場合、健康、安全、その他必要な情報を含む書類を同封または容器に添付するのは購入者の責任です。適切な警告標示、安全な取扱い手順を、取扱者と使用者に提供して下さい。この文書を全体的または部分的に変更することは強く禁じられています。法的に必要な場合を除いて、再発行、再頒布することは、許可されていません。『エクソンモービル』は便宜上使用される言葉であり、エクソンモービルケミカルカンパニー、エクソンモービルコーポレーション、もしくはそれらが直接または間接

製品名: SANTOPRENE(TM) THERMOPLASTIC VULCANIZATE - 8000 SERIES
改訂日: 24Apr2009
ページ 10 / 10

に影響力を持つ被支配会社を含むことがあります。
(AP Core)

弊社使用欄

MHC: 0, 0, 0, 0, 0, 0
DGN: 4409023GJP (1015459)

安全データシート

発行：出光ライオンコンポジット株式会社

作成：1999年08月12日

改訂：2017年06月08日

【1. 製品等及び会社情報】

製品等の名称：カルブ GF0510A+、GF1010A+、GF1020A+、GF1020C+、GF1021A+、GF1022A+、
GF1510A+、GF2010A+、GF2510A+、GF2524A+、GF3010A+、GF3020A+、
GF3510A+、GF2020E+ (着色品を含む)

注：+は、「0～9の数字」あるいは「アルファベット及び数字の組み合わせ」または
無印を表す。またハイフン「-」も含む。

会社名：出光ライオンコンポジット株式会社

住所：東京都台東区東上野4-8-1

担当部門：環境品質保証部

電話番号：03-5830-0533

FAX番号：03-5830-0538

【2. 危険有害性の要約】

有害性	ペレット状であるが、粉塵・ガスを発生する場合は吸入し易い。
GHS分類	
物理化学的危険性	自然発火性固体 分類できない 自己発熱性化学品 分類できない
健康に対する有害性	急性毒性（経口） 分類できない 急性毒性（経皮） 分類できない 急性毒性（吸入：気体） 分類できない 急性毒性（吸入：蒸気） 分類できない 急性毒性（吸入：粉塵） 分類できない 急性毒性（吸入：ミスト） 分類できない 皮膚腐食性／刺激性 分類できない 眼に対する重篤な損傷／眼刺激性 分類できない 呼吸器感作性 分類できない 皮膚感作性 分類できない 生殖細胞変異原性 分類できない 発がん性 分類できない、着色品は第11、15項に記載 生殖毒性 分類できない 特定標的臓器毒性（単回暴露） 分類できない 特定標的臓器毒性（反復暴露） 分類できない、着色品は第11、15項に記載
環境に対する有害性	吸引性呼吸器有害性 分類できない 水生環境有害性（急性） 分類できない 水生環境有害性（慢性） 分類できない
GHSラベル要素	
絵表示又はシンボル	なし
注意喚起語	なし
注意書き	使用前に安全データシート（SDS）を、必ず読むこと。 乾燥、加工時には有効な換気を行い、粉塵を発生する場合、又は、 溶融混練等で蒸気、ガスが発生する場合は、局所排気装置を設置する のが望ましい。 溶融樹脂の取扱いで、ガスが発生する場合、発生ガスの濃度が高い場 所で作業する場合には、有機ガス用マスクを着用する。

【3. 組成及び成分情報】

単一製品・混合物の区別：混合物

成分、含有量及びCAS No.:

	含有量(%)	CAS No.	備考
ポリプロピレン	備考に記載	9003-07-0	含有量は、製品によって異なる。
		9010-79-1	

ポリオレフィンエラストマー	備考に記載	25722-45-61 25087-34-7	
ガラス繊維	5～40	65997-17-3	含有量は、製品によって異なる。
炭酸カルシウム	8～12	471-34-1	GF1022A に該当
タルク	15～19	14807-96-6	GF1021A に該当
ワラストナイト	13～17	13983-17-0	GF2524A に該当

【４．応急処置】

吸入した場合：高温の溶融樹脂からガスが発生する場合、ガスをひどく吸入した時は新鮮な空気のあ
る場所に移すこと。

咳、呼吸困難やその他の症状が出た時は、直ちに医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合：ペレットや粉末の場合は、石鹼・水でよく洗い流しておく。

目に入った場合：眼球を傷つける可能性があるので、清浄な水で十分に洗い流す。コンタクトレンズ
はすぐ取り外す。異物が目に残るようであれば、眼科医の手当てを受ける。

飲み込んだ場合：無理に吐き出させてはならない。水で口の中を洗浄し、異常があれば直ちに医師の
手当てを受ける。被災者に意識のない場合は口から何も与えてはならない。

溶融物が付着した場合：衣服の上から大量の水をかけ、十分に冷却し、衣服を脱がせ、医師の手当て
を受ける。衣服が溶着している場合には無理に剥がさない。

【５．火災時の措置】

消火剤：水、泡消火剤（エアフォーム）粉末消火剤等を用いることが出来るが、水は冷却効果が大き
いので水を使用することが望ましい。

使ってはならない消火剤：情報なし。

特有の危険有害性：情報なし

特有の消火方法：一般火災と同じ方法を用いて差し支えない。

燃焼により、火災時には、熱分解や不完全燃焼により、有害な一酸化炭素等が発生するの
で防毒マスクを着用する。

消火を行う者の保護：防毒マスクを着用する。

【６．漏出時の措置】＜引用文献１＞

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：粉塵が発生する場合、又は溶融混練等で蒸気、ガス
が発生する場合は、局所排気装置を設置するのが望ましい。

環境に対する注意事項：排水系などの水面へ漏出した場合は、魚類、鳥類等への悪影響もあるから
全て回収する。

回収、中和：掃き取り、回収または廃棄する。ペレット、粉末共に床面に残ると滑る危険性が高いの
で、こまめに回収する。

封じ込め及び浄化の方法・機材：飛散したものは、掃き集めて容器に回収する。

溶融状態で漏出したときは、水等で冷却し、固化後に回収する。

【７．取扱い及び保管上の注意】

取扱い：加工時発生するガスは、呼吸器、皮膚を刺激することがあり、ひどく吸入した場合、個人に
よっては吐き気、頭痛等を引き起こすことがあるので吸入しないようにする。

粉末状の樹脂が存在する時は、粉じん爆発の可能性があるため、これらの滞留を避ける。

空気移送、バグフィルター、ホッパー等の設備は静電気を除去するため接地を行う。

保管：直射日光、水濡れ、急激な温度変化等を避ける。貯蔵所では、みだりに火気を使用しない。

【８．ばく露防止及び保護措置】

管理濃度：設定されていない。

許容濃度：樹脂の粉末についての許容は定められていないが、下記の値を準用するのが適当と
考えられる。＜引用文献２＞

日本産業衛生学会 許容濃度の勧告

第３種粉塵 時間荷重平均値：吸入性粉塵 $2\text{mg}/\text{m}^3$

A C G I H

一般粉塵 時間荷重平均値：吸入性粉塵 $3\text{mg}/\text{m}^3$

設備対策：粉じんが発生する場合、又は溶融混練等で蒸気、ガスが発生する場合は、局所排気装置を
設置するのが望ましい。

保護具：粉じんの発生する作業の場合は、防じんマスク、保護眼鏡を着用する。

呼吸器の保護具：情報なし

溶融樹脂の取扱いで、ガスが発生する場合、発生ガスの濃度が高い場所で作業する場合には、有機ガス用マスクを着用する。

手の保護具：：情報なし

眼の保護具：情報なし

皮膚及び身体の保護具：情報なし

衛生対策：情報なし

【 9. 物理／化学的性質】

物理的状态、形状、色など：ペレット、着色品もある

臭い：データなし

融点・凝固点：150～170℃（融点）

引火点：約340℃

爆発範囲：データなし

比重（密度）：0.9～1.3（at 23℃）

溶解度：水；不溶

自然発火温度：440℃（雲状）＜引用文献3＞

分解温度：データなし

【 10. 安定性及び反応性】

安定性・反応性：一般的な貯蔵、取扱いにおいては安定で、反応性はない。

水との反応性：なし

酸化性：なし

自己反応性・爆発性：なし

粉塵爆発性：粉塵は爆発性混合気を生成する場合がある。

（爆発下限界濃度 平均粒径35μmにて15g/m³）＜引用文献3＞

【 11. 有害性情報】

急性毒性 経口 LD50（ラット）＞50000mg/kg（推定値）

皮膚腐食性 知見なし

刺激性（皮膚、目） 物理的な刺激がある。

感作性 知見なし

発ガン性 着色品によっては、カーボンブラックを使用し、発がん性一区分2となる。

特定標的臓器毒性（反復暴露）着色品によっては、二酸化チタン、カーボンブラックを使用し、特定標的臓器毒性（反復暴露）一区分2（吸入：肺）となる。

【 12. 環境影響情報】

海洋生物、鳥類が摂取することを防止するため、いかなる海洋や水域でも投棄、放出してはならない。

【 13. 廃棄上の注意】

残余廃棄物 無害な廃棄物として、関連法規及び地方自治体の基準に従うこと。

汚染容器及び包装 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規及び地方自治体の基準に従って適切な処置を行なう。

【 14. 輸送上の注意】

（1）梱包が破れないように、水濡れや乱暴な取扱いを避ける。もし、破袋してペレットが飛散した場合は、滑って転倒しないように注意する。流出したものは速やかに回収する。

（2）空気移送の場合は、移送速度を低くしたり、確実な接地を行うなど静電気災害防止対策を確実に実施する。

（3）その他

国連分類：非該当

国連番号：非該当

【１５．適用法令】

	含有量(%)	C A S N o .	備考
カルブ GF0510A+、GF1010A+、 GF1020A+、GF1020C+、 GF1021A+、GF1022A+、 GF1510A+、GF2010A+、 GF2510A+、GF2524A+、 GF3010A+、GF3020A+、 GF3510A+、GF2020E+	－	－	消防法：指定可燃物（合成樹脂類） （３，０００kg以上の貯蔵）
二酸化チタン	0～3	13463-67-7	労安法：表示対象物質、通知対象物質
カーボンブラック	0～4	1333-86-4	労安法：表示対象物質、通知対象物質

【１６．その他】

引用文献

- １）樹脂ペレット漏出防止マニュアル 日本プラスチック工業連盟 １９９３年２月
- ２）日本産業衛生学会 許容濃度の勧告（２００４年）
- ３）可燃性粉じんの爆発危険性評価技術 労働省産業安全研究所 安全資料 RIIS-SD-90-1, 1990
- ４）厚生労働省ホームページ

本情報は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しており、記載の情報は新しい知見により改訂される場合があります。

本情報の危険性は、起こり得る全ての危険性を網羅したものであるということを保証するものではありません。特殊な取扱の場合は用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。

本情報による指示に従って本物質が取扱われる如何にかかわらず、それによって生じる損害等の責任は、保証するものではありません。

以上

作成日 : 2009/09/18

改訂日 : 2012/01/14

製品安全データシート

(混合物用)

【 1. 化学物質等及び会社情報】

製品名VIC(Z) コシ120 和付

会社名株式会社セイコーアドバンス

住 所〒 349-0131 埼玉県蓮田市根金 1 5 7 5

担当部門技術開発部担当者菅野智徳

電話番号048(766)4516FAX 番号048(766)5104

緊急連絡先担当部門に同じ電話番号担当部門に同じ

【 2. 危険有害性の要約】

G H S 分類 :

- 物理化学的危険性 -

引火性液体〔区分 2 〕

- 健康に対する有害性 -

急性毒性（経口）〔区分外〕

急性毒性（経皮）〔区分外〕

急性毒性（吸入・蒸気）〔区分 5 〕

皮膚腐食性・刺激性〔区分 2 〕

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性〔区分 2 〕

皮膚感作性〔区分 1 〕

生殖細胞変異性〔区分 2 〕

発がん性〔区分 2 〕

生殖毒性〔区分 1 B 〕

特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）

〔区分 1 〕 中枢神経系 肝臓 脾臓

〔区分 2 〕 肺

〔区分 3 〕 気道刺激性

特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）

〔区分 1 〕 中枢神経系 肺 腎臓 肝臓

吸引性呼吸器有害性

- 環境に対する有害性 -

水性環境急性有害性〔区分 3 〕

水性環境慢性有害性〔区分 3 〕

絵表示又はシンボル :

炎

感嘆符

健康有害性

注意喚起語 :

危険

危険有害性情報 :

引火性の高い液体及び蒸気

吸入すると有害のおそれ

皮膚刺激

重篤な眼の刺激

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

遺伝性疾患のおそれの疑い

発がんのおそれの疑い

生殖能または胎児への悪影響のおそれ

臓器の障害（ 中枢神経系 肝臓 脾臓 ）

臓器の障害のおそれ（ 肺 ）

(気道刺激性) 呼吸器への刺激のおそれ
長期にわたる、または、反復暴露により臓器の障害 (中枢神経系 肺 腎臓 肝臓)
水生生物に有害
長期的影響により水生生物に有害

注意事項：吸入したり皮膚に触れたりすると、中毒やかぶれを起こすおそれがありますので、取扱いには下記の注意事項を守ってください。

- 予防策 -
- 熱 / 火気 / 裸火 / 高温のもののような着火源から遠ざけること - 禁煙
取扱い中は出来る限り皮膚に触れないようにし、必要に応じて有機ガス用防毒マスク又は送気マスクを付け、
頭布、保護眼鏡、保護手袋、保護前掛け等を着用すること
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器等を使用すること
静電気放電に対する予防措置を講ずること
シンナー遊びや汚れ落とし等本来の用途意外には使用しないこと
- 対応 -
- 容器からこぼれた場合には布等でふき取り、インキの付着した布やインキかす等は廃棄するまで、水を張った容器に保管すること
皮膚に付着した場合には、直ちに多量の石鹼水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときには医師の診察を受けること
眼に入った場合には、多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けること
蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし必要に応じ医師の診察を受けること
誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診察を受けること
取扱い後には、手洗い及びうがいを十分に行い、作業衣に付着した場合には、その汚れをよく落とすこと
- 保管 -
- よくフタをし 40℃ 以下の一定の場所を定め (出きるだけ冷暗所)、子供の手の届かないところに保管すること
ボイラー等熱源付近や可燃物の付近には置かないこと
- 廃棄 -
- ドラム缶等に入れ、横転しても内容物が外部へ流出しないよう密閉すること
消却する場合は産業廃棄物処理基準に従って消却すること
外部委託の場合は廃油 (引火性) であることを明記し、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託すること

【 3. 組成、成分情報】

単一製品・混合物の区分：混合物
一般名：スクリーンインキ類

成分及び含有量						
化 学 名	対象法	含有量 %	化 学 式	官法公示№	CAS №	
シロハチソ	労	5 ~ 10	C6H10O	3-2376	108-94-1	
イソ和ソ	労	5 ~ 10	C9H14O	3-2389	78-59-1	
酸化 チソ	労	50 ~ 60	O2TI		13463-67-7	

毒劇法の該否：非該当

対象法 労 = 労働安全衛生法通知対象物質 , 特 = PRTR 法特定第一種指定化学物質
I = PRTR 法第一種指定化学物質 , II = PRTR 法第二種指定化学物質

【 4. 応急措置】

吸入した場合：直ちに患者を毛布等にくるんで安静にさせ新鮮な空気のある場所に移す。
呼吸が困難な場合又は呼吸が停止している場合は、直ちに人工呼吸を行い、医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合：直ちに汚染された衣服や靴等を脱がせ、付着部を石鹼水で洗浄し、大量の水で洗い流す。

もし皮膚に炎症を生じた場合には医師の手当を受ける。
目に入った場合：直ちに多量の水で15分以上洗い流し、眼科医の手当てを受ける。
飲み込んだ場合：吐き出させると気管に入っかえって危険が増す。直ちに医師の手当てを受ける。

【 5. 火災時の措置】

消火剤： 粉末、泡、二酸化炭素、乾燥砂、霧状の強化液
使ってはならない消火剤： 水
特定の消火方法：速やかに容器を安全な場所に移す。
移動不可能な場合には容器及び周囲に散水して冷却する。
指定の消火剤を用いて消火する。
消火を行う者の保護：消火作業の際には必ず保護具を着用し、風下で作業しない。

【 6. 漏出時の措置】

人体に対する注意事項：風下の人を退避させる。漏出した場所の周辺にはロープなどして立ち入りを禁止する。
付近の着火源となるものは速やかに取り除く。
作業の際には必ず保護具を着用し、風下で作業しない。
屋内の場合には処理が終わるまで十分に換気を行う。
環境に対する注意事項：濃厚な洗浄廃液が河川に排出しないように注意する。
除去方法：漏出した液は土砂等でその流れを止め、安全な場所に導き、密閉可能な空容器にできるだけ回収し、
そのあとを多量の水で洗い流す。その場合中性洗剤等の分散剤を用いて洗い流す。

【 7. 取扱い及び保管上の注意】

取扱い：
技術的対策 静電気対策のために装置、機器等の設置を確実にし、作業衣作業靴は導電性のものを用いる等の対策を行う。
電気機器類は防爆型のもの、工具は火花防止型のものを用いる。
安全取扱い注意事項 取扱い場所は火気厳禁とし、作業場は換気を十分に行う。
吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないよう適切な保護具を着用する。
取扱いの都度容器を密栓する。蒸気の発散を出来るだけ抑え、作業環境を管理濃度以下に保つように努める。
保管：
適切な保管条件 容器は密栓して、換気良好な冷暗所に貯蔵する。
ボイラー等熱源付近や可燃物の付近には置かない。
酸化性物質、有機過酸化化物等と同一場所に置かない。
消防法の基準にもとづき危険物倉庫に保管する。

【 8. 暴露防止及び保護措置】

設備対策：屋内作業時は発生源の密閉化又は局所排気装置を設置する。
保護具：有機ガス用防毒マスク、保護眼鏡、耐油性保護手袋、保護衣、保護長靴等を使用する。
適切な衛生対策：マスク等の吸着剤の交換は定期又は使用の都度行う。
許容濃度：

化学名の名称	管理濃度	ACGIH(2008 年度)
イ和シ	.00	5.00 PPM

【 9. 物質的及び化学的性質】

形状：ペースト	色：白	臭い：溶剤臭
PH：該当しない	沸点(℃)：154 ~ 214	引火点(℃)：54.0 ~ 57.0
比重：1.05 ~ 1.80	水への溶解性：難溶	
有機溶剤爆発限界(%)：下限	上限	

【 10. 安全性及び反応性】

安定性：常温以下では安定
避けるべき条件：加熱により容器が爆発する。
避けるべき材料：第一類、第六類の危険物及び高圧ガスとの混合は避ける。
危険有害な分解生成物：燃焼により塩化水素、一酸化炭素等の有害ガスが発生する。

【 11. 有害性情報】

シロヘサソ

急性毒性（径口）	〔区分 4 〕	飲み込むと有害	
	LD50	1,544.00 MG/KG	ラット
急性毒性（経皮）	〔区分 3 〕	皮膚に接触すると有毒	
	LD50	947.00 MG/KG	ウサギ
急性毒性（吸入・蒸気）	〔区分 3 〕	吸入すると有毒	
	LD50	2,450.00 PPM/4H	ラット
急性毒性（吸入・ミスト）	〔区分外〕		
	LD50	8,000.00 PPM/4H	マウス
皮膚腐食性・刺激性	〔区分 2 〕	皮膚刺激	
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	〔区分 2 A 〕	強い眼刺激	
呼吸器感受性	〔区分外〕		
生殖細胞変異性	〔区分 2 〕	遺伝性疾患のおそれの疑い	
発がん性	〔区分外〕		
生殖毒性	〔区分 2 〕	生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い	
吸引性呼吸器有害性	〔区分 2 〕	飲み込んで気道に侵入すると有害のおそれ	

イネン

急性毒性（径口）	〔区分 4 〕	飲み込むと有害	
	LD50	1,843.00 MG/KG	ラット
急性毒性（経皮）	〔区分 4 〕	皮膚に接触すると有害	
	LD50	1,265.00 MG/KG	ウサギ
急性毒性（吸入・粉塵）	〔区分 5 〕	吸入すると有害のおそれ	
急性毒性（吸入・ミスト）	〔区分 5 〕	吸入すると有害のおそれ	
皮膚腐食性・刺激性	〔区分 3 〕	軽度の皮膚刺激	
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	〔区分 2 A 〕	強い眼刺激	
呼吸器感受性	〔区分外〕		
生殖細胞変異性	〔区分外〕		
発がん性	〔区分 2 〕	発がんのおそれの疑い	
生殖毒性	〔区分外〕		

酸化 チソ

急性毒性（径口）	〔区分外〕		
急性毒性（経皮）	〔区分外〕		
皮膚腐食性・刺激性	〔区分外〕		
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	〔区分 2 B 〕	眼刺激	
呼吸器感受性	〔区分外〕		
生殖細胞変異性	〔区分外〕		
発がん性	〔区分外〕		

上記急性毒性および局所効果等の印字以外の情報は得られていない。

【 12. 環境影響情報】

シロヘサソ

水性環境急性有害性	〔区分外〕		
	LC50	527.00 MG/L/96H	魚類（ファットヘッド・ミノー）
水性環境慢性有害性	〔区分外〕		

イネン

水性環境急性有害性	〔区分 3 〕	水生生物に有害	
	LC50	12.90 MG/L/96H	甲殻類（ミッド・シュリンプ）
水性環境慢性有害性	〔区分外〕		

酸化 チソ

水性環境急性有害性	〔区分外〕		
水性環境慢性有害性	〔区分 4 〕	長期的影響により水生生物に有害のおそれ	

【 13. 廃棄上の注意】

残余廃棄物；

廃インキ、容器等の廃棄物は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。

容器、機器装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。

排水処理、焼却などにより発生した廃棄物についても、廃棄物の処理および清掃に関する法律、関係する法規に従って処理を行うか、委託をすること。

廃インキなどを焼却処分する場合には、珪藻土などに吸着させて開放型の焼却炉で少量ずつ焼却する。または焼却炉の火室へ噴霧し焼却する。ただし、ダイオキシンなどの有害ガスが発生する恐れがある場合には、許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託すること。

特別管理産業廃棄物（廃油）に該当するので、許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託をして処理をする。

汚染容器および包装；

から容器は内容物を完全に除去してから処分する。

都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託し処理をする。

【 14. 輸送上の注意】

注意事項：容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み荷くずれ防止を確実に行う。

容器を積み重ねる場合には高さ 3 m 以下とする。

第一類、第六類の危険物及び高压ガス（一部を除く）とは混載できない。

消防法の危険等級 に適応する運搬容器に収納して運搬する。

指定数量以上の製品を車両で運搬する場合は、当該車両に総務省令で定められた標識を掲げ適正な消化器を備える。

陸上輸送： 消防法、労働安全衛生法、毒劇物法に該当する場合は、それぞれの該当法律に定められる運送方法に従うこと。

海上輸送： 船舶安全法に定めるところに従うこと。

航空輸送： 航空法の定めるところに従うこと。

国連分類：クラス 3 . 3（高引火点引火性液体）

国連番号： 1 2 1 0

指針番号： 1 2 9

【 15. 適用法令】

廃棄物の処理及び清掃に関する法律

消防法（危険物 第四類第二石油類 非水溶性）

危険物船舶輸送及び貯蔵規制（引火性液体類 引火点が摂氏 2 3 度以上のもの）

労働安全衛生法（有機溶剤中毒予防規則 第 2 種有機溶剤 通知対象物質）

道路交通法（長大トンネル、水底トンネル、高速道路等での規制）

【 16. その他の情報】

参考資料 1) 国立環境研究所データベース [HTTP://W-CHEMDB.NIES.GO.JP/](http://w-chemdb.nies.go.jp/)

2) 中央労働災害防止協会データベース [HTTP://WWW.JAISH.GR.JP/](http://www.jaish.gr.jp/)

3) 原材料の M S D S

4) I C S C C A R D [HTTP://WWW.NIHS.GO.JP/ICSC/](http://www.nihs.go.jp/icsc/)

5) 印刷インキ工業連合会：製品安全 データシート 作成資料（改訂第 3 版）

6) 新日本法規：化学物質規制・管理実務便覧

記載内容問い合わせ先

担当部門 当社技術開発部

電話番号 048-766-4516 FAX 番号 048-766-5104

発行依頼および発送に関する問い合わせ先

担当部門 当社工場管理部

電話番号 048-766-4511 FAX 番号 048-766-1155

「製品安全データシート」の記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、法令の改正や新しい知見により改訂されることがあります。

本製品を取り扱う場合は記載内容を参考にして、使用者の責任において実態に即した安全対策を講じてください。

本データシートは、安全や品質の保証書ではありません。